



三、部内第八號

大分省

緬甸獨立指導要綱

昭和十八年
陸軍案

S 1.7.0.0 - 46

08

REEL No. A-1206

0253

アジア歴史資料センター

緬甸獨立指導要綱

第一 方針

一、八紘爲宇ノ皇道ニ基キ萬邦ヲシテ各、其
所ヲ得シムルノ大義ニ則リ帝國輔導ノ下
努メテ緬甸ノ創意ト責任トヲ尊重シツ
大東亞共榮圈ノ一環タル新緬甸國ヲ生
成ス

而シテ新緬甸ヲシテ先ツ速ニ帝國ト緊密
一体大東亞戰爭ノ完遂ニ協力シ得ル物心
両面ノ態勢ヲ整備セシム

第二 指導要領

- 一、獨立準備ノ目標ト爲スヘキ緬甸國及日緬關係ノ基本的形態 別冊ノ如シ
- 二、三月中旬「バーモ」及所要ノ緬甸要人ヲ招致シ政府ヨリ獨立許容ヲ正式ニ示達スル
ト共ニ獨立準備ノ大綱ヲ指示ス
- 三、現地軍司令官ハ其指導下ニ「バーモ」ヲ中心トシ所要ノ人員ヲ以テ獨立準備委員

S 1.7.0.0 - 46

11

- 會ヲ編成セシメ先ツ建國ノ精神ヲ確立シ
- 次テ獨立後ニ於ケル新緬甸國ノ形態、組織及獨立ヘノ轉移ニ伴フ諸般施策等ヲ立案審議セシム
- 日本人ハ本編成ニ入ルコトナク之ヲ指導スル
- 日本則トス
- 四、獨立準備間ヨリ現行政府長官「バーモ」ヲ以テ新緬甸國ノ指導者タラシムル如ク

S 1.7.0.0 - 46

12

諸般ノ施策ヲ進ムルモノトス
五、独立軍ヲ時期ハ昭和十八年八月一日ト豫
定シ其準備完了ハ概ネ六月下旬ヲ
目途トス

S 1.7.0.0 - 46

13

REEL No. A-1206

0256

アジア歴史資料センター

別冊

緬甸國及日緬關係ノ基本形態

第一 建國ノ理念

一 大日本帝國ヲ盟主トシ大東亞共榮圈ノ一
環タル新緬甸國ヲ建設シ以テ道義世界
ノ創造ニ寄與ス

B 1.7.0.0 - 46

14

REEL No. A-1206

0259

アジア歴史資料センター

第二、國家構成

一、將來國体及政体ハ努メテ緬甸人自体ノ發意ニ俟テ之ヲ決定スルヲ主義トシ
當分間ハバーモテラ國家代表（假稱）ト

我指導者國家トス

二、領域ハ全緬甸ヨリ「シヤン」諸州及「カレン」州ヲ除外シタル地域トス

①「シヤン」諸州及「カレン」州ノ帰屬ハ別ニ定ム
併リ「ミナ」州及「ト」州ハ別ニ定ム

三、國民ハ緬甸民族ヲ主体トシ領域ニ在ル諸民族ヲ協和的ニ抱擁シテ之ヲ構成ス

但シ印度人ニ對スル緬甸國籍ノ附與ハ選擇主義ニ依ル又日本人ハ一般國民ト同様ノ待遇等ヲ享有スルモ緬甸國民タルコトヲ四國名國旗、首都ハ主トシテ緬甸側ノ發意ニ依リ之ヲ定ム

S 1.7.0.0 - 46

16

S 1.7.0.0 - 46

15

第三日緬關係ノ大綱

一 帝國ノ對緬施策ノ要ハ緬甸國カシテ努
メテ緬甸國人ノ創意ト責任トニ依リ眞
ニ大東亞共榮圈ノ環タル名實ヲ備ヘシム
ルニ在リ

○ニ在緬帝國側機關ノ機構及任務に述ズ
三 帝國ハ緬甸國政府内ニ少数精銳ナル
顧問日本人ヲ配置シ之カ指導ニ任セン
右日本人ハ緬甸國官吏トセス

S 1.7.0.0 - 46

17

18

S 1.7.0.0 - 46

第四國政

一、政治機構及之カ運用ハ努メテ強力簡素ナラ

シムラ方針トシ國家代表ノ下ニ行政司法ノ

両機關ヲ置キ行政機關ノ長官ハ當分ノ

閣國家代表トシ兼シ

二、國民參政ノ範圍及形態ハ緬甸人ノ意志ヲ

尊重シ之ヲ定ムルモ其機關ノ性格ヲ有

スル議會及政黨ハ認メス

三、重要國策及豫算ハ本國

閣國家代表ノ諮問機關トシテ參議府

ヲ設クルコトヲ行フ

四、立法ハ前項參議府ヲ對シテ諮問ヲ終テ國

家代表之ヲ行フ

五、治外法權ハ之ヲ設ケサルモ日本人ノ爲特別

ノ措置ヲ講ス

六、外交ハ帝國ノ實質的把握下ニ自ラ之ヲ行フ

七、

S 1.7.0.0 - 45

20

S 1.7.0.0 - 46

19

第五 軍事

一、帝國トノ間ニ共同防衛ヲ盟約シ帝國軍隊ノ爲一切ノ便宜ヲ供與ス

二、緬甸防衛ニ必要ナル所要ノ軍備ヲ保有ス但シ兵力量及編制ノ決定ハ實質的ニ

帝國之ヲ指導ス緬甸國軍ハ戰時ノ用兵作戰ニ関シ在緬最高指揮官ノ指揮ヲ承ク
三、所要ニ應シ帝國軍隊ノ爲ノ一部施設及

軍需供與ヲ担任ス

第六 財政經濟及交通

一 經濟ハ日緬共存共榮ヲ精神トシ緬甸國ノ主權下ニ於テ公正自由ナル活動ニ依リ之カ振興ヲ期ス

但シ大東亞建設上特ニ必要ナルモノハ帝國ニ於テ實質的ニ之ヲ把握ス

ニ 發券銀^制ヲ整備シ新ナル通貨^{制度}ヲ確

立ス

而シテ

之カ實質ハ帝國之ヲ把握ス

此際新通貨制度ヘノ移行ヲ特ニ

ナラシムルノ措置ヲ講ス

三 財政ハ自立セシムルヲ本則トスルモ要スレハ帝

國ヲ借款^{供與}ス

四 第三國ヨリノ資本導入ハ帝國ノ承認ヲ受

クル如ク

五 重要交通、通信及電力ハ帝國實質的ニ之ヲ

把握ス

而シテ大東亞戦争遂行間ニ在リテハ用兵上

特ニ必要ナルモノニ限リ帝國之ヲ掌握ス

六 緬甸國ト他地域トノ交通及物資ノ交通ハ

當分ノ間概ネ現状通りトス

但シ爲シ得ル限り緬甸國人ヲ之ニ參與セシム

七 敵産ハ大東亞戦争遂行上及大東亞經營

上帝國ニ於テ把握スルヲ必要トスル特殊且

重要ナルモノ以外ハ擧ケテ之ヲ緬甸國ニ移譲ス

十一
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

第七 シヤンカレンニ地区ト緬甸トノ關係
シヤンカレンニ地区ニ對シテハ差當リ依然軍
政ヲ維持スルモ緬甸國トハ現在ノ密接ナル
關聯性ヲ破壞セサル趣旨ノ下ニ在リ如ク施

策ス

1. 兩地區ノ自由ナル出入ヲ認ム
2. 物資ノ自由交換ヲ認メ互ニ關稅等ヲ徵收セス
3. 本地區ノ通貨ハ緬甸新通貨トス

又交通、通信等ハ努メテ緬甸ニ於ケル企業
體ニ經營セシム

参拾部 内第 20 號

細 旬 獨 立 指 導 要 綱

昭和一八 三 一〇
大本營政府連絡會議決定

64 1:7.0.0 - 46

29

REEL No. A-1206

0266

アジア歴史資料センター

緬甸獨立指導要綱

第一方 針

一、八紘爲宇ノ皇道ニ基キ萬邦ヲシテ各々其ノ所ヲ得シムルノ大義ニ則
リ帝國輔導ノ下努メテ緬甸ノ創意ト責任トヲ尊重シツツ大東亞共榮
圈ノ一環タル新緬甸國ヲ生成ス
而シテ新緬甸ヲシテ先ツ速ニ帝國ト緊密一体大東亞戰爭完遂ニ協力
シ得ル物心兩面ノ態勢ヲ整備セシム

第二 指導要領

二、獨立準備ノ目標ト爲スヘキ緬甸國及日緬關係ノ基本的形態別冊ノ如シ
三、三月中旬頃「バーモ」及所要ノ緬甸要人ヲ招致シ政府ヨリ獨立許可
ヲ正式ニ示達スルト共ニ獨立ノ大綱ヲ指示ス

四、現地軍司令官ハ中央ト密ニ連絡シ其ノ指導下ニ「バーモ」ヲ中心ト
シ所要ノ人員ヲ以テ獨立準備委員會ヲ編成セシメ先ツ建國ノ精神ヲ
確立シ次テ獨立後ニ於ケル新緬甸國ノ形態、組織及獨立ヘノ轉移ニ
伴フ諸般ノ施策等ヲ立案審議セシム

日本人ハ本編成ニハルコトナク之ヲ指導スルモノトス

五、獨立準備期間ヨリ現行政府長官「バーモ」ヲ以テ新緬甸國ノ指導者タ
ラシムル如ク諸般ノ施策ヲ進ムルモノトス

六、獨立ノ時期ハ昭和十八年八月一日ト豫定シ其ノ準備完了ハ概ネ六月
下旬ヲ目途トス

七、獨立ニ際シ米英ニ對シ宣戰セシム

八、獨立ト共ニ締結スヘキ日緬間ノ條約ハ必要ノ最少限ニ止ム

S 1.7.0.0 - 46

31

S 1.7.0.0 - 46

30

緬甸國及日緬關係ノ基本形態

第一 建國ノ理念

一、大日本帝國ヲ盟主トスル大東亞共榮圈ノ一環トシテ道義ニ基ク新緬甸國ヲ建設シ以テ世界新秩序ノ創造ニ寄與ス

第二 國家構成

二、國體及政體ハ努メテ緬甸人自体ノ發意ニ俟チ之ヲ決定スルモ政體ニ就テハ指導者國家ノ形態ヲトラシム

三、領域ハ全緬甸ヨリ「シヤン」諸州及「カレンニ」州ヲ除外シタル地域トス

「シヤン」諸州及「カレンニ」州ノ歸屬ハ別ニ定ム

S 1.7.0.0 - 46

四、國民ハ緬甸民族ヲ主体トシ領域ニ在ル諸民族ヲ協和的ニ抱擁シテ之ヲ構成ス

而シテ印度人ニ對スル緬甸國籍ノ附與ハ前項ノ趣旨ニ基キ緬甸國ノ選擇スル所ニ依ル

日本人ハ緬甸國民タルコトナシ

五、國名、國旗、首都ハ主トシテ緬甸側ノ發意ニ依リ之ヲ定ム

第三 日緬關係ノ大綱

六、帝國ノ對緬施策ノ要ハ緬甸國ヲシテ努メテ緬甸國人ノ創意ト責任ト

ニ依リ眞ニ大東亞共榮圈ノ一環タル獨立國トシテノ名實ヲ備ヘシムルニ在リ

七、帝國ハ緬甸國ニ對シ專任ノ特命全權大使ヲ派遣駐劄セシム

S 1.7.0.0 - 46

當分ノ間現地ノ特殊事情ニ鑑ミ現地帝國側官憲ノ業務實施ニ關シテハ特ニ軍事上ノ要請ヲ考慮シ實情ニ即スル如ク措置スルモノトス
八帝國ハ緬甸國政府内ニ少數精銳ナル日本人ヲ配置シ之カ指導ニ任セシム

右日本人ハ緬甸國官吏トセス

第四 國 政

九政治機構及之カ運用ハ努メテ簡力簡素ナラシムルヲ方針トシ國家代表ノ下ニ行政、司法、兩機關ヲ置キ當分ノ間國家代表ハ行政機關ノ長官之ヲ兼ス

立法ハ國家代表之ヲ行フ

一〇國民參政ノ範圍及形態ハ緬甸人ノ意志ヲ尊重シ之ヲ定ム

S 1.7.0.0 - 46

34

但シ議會ヲ設ケタル場合ニ於テモ之カ爲國家代表ノ國務施行ヲ阻害セサル如ク留意ス

又政黨ノ分立抗爭ヲ戒ム

重要國務ノ諮問機關トシテ參議府（假稱）ヲ設クルコトヲ得

九 治外法權ハ之ヲ設ケス

但シ日本人ニ對シテハ緬甸人ニ比シ不利ナラサル待遇ヲ附與ス

〇 一、二、外交ハ帝國ニ緊密提携セシム

第五 軍 事

一三帝國トノ間ニ軍事上完全協力ヲ約シ帝國軍隊ヲ爲一切ノ便宜ヲ供與ス

所要ニ應ジ帝國軍隊ノ爲ノ施設等ヲ擔任ス

S 1.7.0.0 - 46

35

一四、緬甸防衛ニ必要ナル所要ノ陸海軍ヲ保有ス

但シ兵力量及編制ノ決定ハ實質的ニ帝國之ヲ指導ス

緬甸國軍ハ戰時ノ用兵作戰ニ關シ夫々在緬帝國陸海軍最高指揮官ノ

指揮ヲ承ク

第六 財政、經濟及交通

一五、經濟ハ大東亞經濟建設ノ計畫ニ從ヒ其ノ一環トシテ緬甸國ノ主權下

ニ於テ公正自由ナル活動ニ依リ之カ振興ヲ期ス

但シ帝國側ハ之ニ所要ノ援助ヲ與ヘ又大東亞建設上特ニ必要ナルモ

ノハ帝國ノ施策ニ順應セシムル如ク所要ノ措置ヲ講ス

一六、金融ニ關シテハ資金、交流、決済方法、換算率等ニ付帝國及爾他ノ

地域ト、協力的体制ニ於テ之ヲ整備ス

S 1.7.0.0 - 46

36

發榮機構ヲ整備シ新ナル通貨制度ヲ確立ス但シ之カ實施ノ時期ハ諸般ノ情勢ヲ考慮シテ別ニ定ム

一七、財政ハ速ニ自立セシムル如ク指導ス

一八、交通及通信ハ緬甸國ノ主權下ニ置ケモ重要ナルモノニ關シテハ帝國

ノ特別ナル要請ヲ認メシメ特ニ作戰用兵ニ支障ヲ來ササル如ク措置

ス

一九、緬甸國ト他地域トノ交通及物資ノ交流ハ大東亞ヲ通スル計畫ニ從フ

モ其ノ要領ハ充分ノ間概ネ現状ヲ維持ス

但シ爲シ得ル限り緬甸國人ヲ之ニ參加均霑セシム

二〇、敵産ハ大東亞戰爭遂行上及大東亞經營上帝國ニ於テ把握スルヲ必要

トスル特殊且重要ナルモノ以外ハ之ヲ緬甸國ニ移讓ス

S 1.7.0.0 - 46

37

第七 「シヤン」「カレン」地區ト緬甸トノ關係

二、帝國軍ニ於テ現ニ軍政ヲ實施シテ「シヤン」及「カレン」地區ニ對シテハ差當リ依然軍政ヲ續行スルモ緬甸國トハ現在、密接ナル關聯性ヲ破壞セサル意旨ヲ下ニ左ノ如ク施策ス

- 1、兩地域ノ自由ナル出入ヲ認ム
- 2、物資ノ交流ヲ自由ナラシメ互ニ關稅等ヲ徵收セス
- 3、本地區ニ於テハ緬甸ニ於ケルト同一ノ通貨ヲ使用ス
- 4、交通、通信等ハ努メテ緬甸ニ於ケル企業体ニ經營セシム

國家秘密

參拾部、内第 20 號

緬甸獨立指導要綱別冊第三、七ニ
關スル申合セ

昭和八三一
陸軍省
海軍省
外務省
大藏省
内務省

緬甸獨立指導要綱別冊第三、七ニ基ク現地ニ於ケル帝國側官憲ノ業務
實施要領ハ當分ノ間概ネ左ノ通りトシ緬甸政府トノ交渉ハ努メテ大使
ヲ通スルモノトス

一大使

純外交

帝國商事ノ保護ニ關スル事務

帝國臣民ニ關スル事務

移植民、海外拓殖事業ニ關スル事務

文化事業ニ關スル事務

三海軍最高指揮官

緬甸國海軍軍備及之ヲ用兵ニ關スル事項

三陸軍最高指揮官

其ノ他ノ事項

以上ノ業務實施ニ方リテハ相互關連事項ニ就キ密ニ協議スルモノトス

S 1.7.0.0 - 46

40

S 1.7.0.0 - 46

39